

# エダマメの栽培法

2011/10/17

## 特性

### 《枝豆と大豆の違い》

どちらも大豆ですが、早生で日長に関係なく花が付き、早蒔きできて、大豆を若採りするのが枝豆です(正確には※夏大豆といえます。)。晩生系で完熟どり向けを一般に大豆(※秋大豆)といえます。つまり、種まきの時期が全く異なり、枝豆を遅く蒔いたり、大豆を早蒔きしても全く実が付きません。しかし、どちらも大豆には変わりがないので、肥培管理は全く同じです。特に、カラスや鳩が蒔いた種をねらいにきますので、播種後は必ず網をかぶせるなどして、予防措置を講じてください。

※本来秋大豆は低温短日で花芽が分化しますので、春に蒔くと真夏に開花期を迎え実がつきません。秋大豆は短日でやや温度が下がる9月に開花期を迎えるように播種期を決定すべきで、早蒔きは厳禁です。また、夏大豆であるエダマメは高温期に向う過程で花をつけますが高温すぎると落果します。エダマメの遅まきは厳禁です。

### 《実が付かないのは?》

①大豆は根の周りに自然発生する根粒菌という微生物の力(=空中窒素固定と言います)により窒素分を自給(60%程度)できます。前作がある畑にはかなり肥料分(20%程度)が残っていますので、人為的に施肥しなければならないケース※は少ないです。過剰な元肥は人間の糖尿病と同じで、栄養過剰により花がつかなかったり、着果しません。

②強い光が着果には必要です。開花しても、株間が狭かったり曇天が続くなどして光が不足すると、受精できないので莢が付いてもスカスカのままです。

③花が咲き、受精しても、実の肥大期に水分が不足すると、やはり、スカスカの実になります。開花後雨が降らないときは灌水の必要があります。

※前作がない場合や水田の後作では成分で5Kg/10aの窒素が元肥として必要となります。

## 種まき

エダマメはインゲンよりやや低温でも発芽します。佐世保では早生系を4月上旬から5月上旬に蒔いて6~7月どりにします。中生系(中間型)を5月~6月上旬に蒔いて7~8月に収穫します。(6月以降蒔きは不稔が多くなり避けたほうがよいです。)

畝巾は120cm。株間は早生系で25cm以上、中生系ではやや背丈が高いので30cm位が適当です。間引いて最終的に二本立てとしますので、種まきは一ヶ所に4粒位が適当です。移植はしないほうがよい(後の生育が断然違います!)のでできるだけ直播してください。

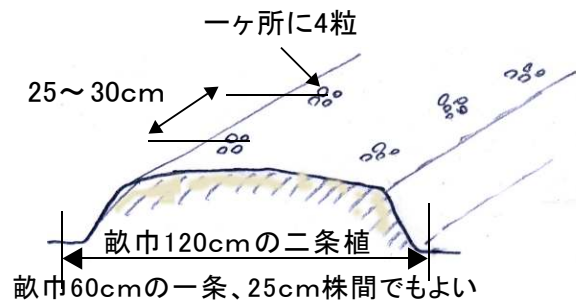
## 施肥と管理

「大豆、小豆は肥料をやるな」とか「大豆は畦に蒔け」と当地佐世保では言い伝えられております。秋野菜を作った後では、まず窒素肥料はいりません。

1㎡あたりの施肥量は、完熟堆肥1~1.5Kg、苦土石灰100~150g、肥料はリン酸とカリ(各成分10%位として)のPK配合肥料をを50~100g程度、元肥として全層によくふりこんで整地しておきます。元肥をやや少な目としているので、開花時期に、8:8:8の配合肥料50g/㎡以下を追肥し、中耕土寄せを行います。

## 収穫

開花後約1ヶ月で収穫期となりますが、実がふくらみかけたら早めに収穫します。特に最近流行の茶や黒豆のエダマメは注意してください。



インゲンや大豆

エンドウ

